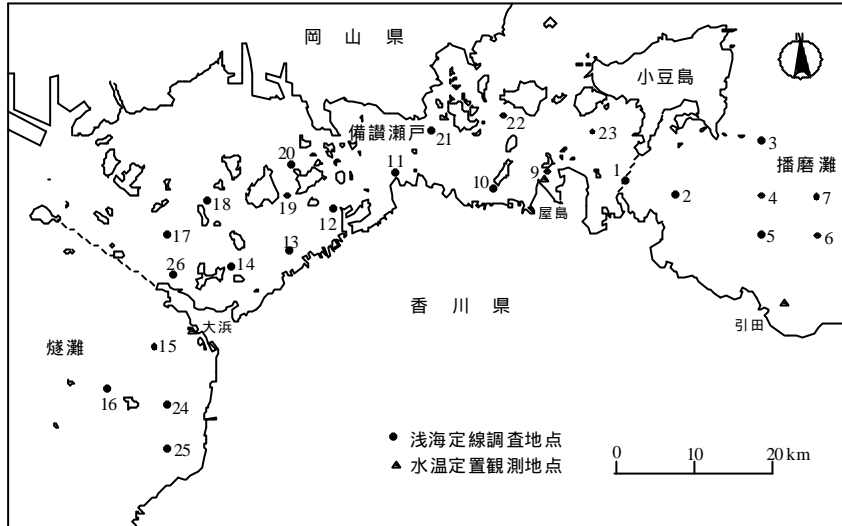


香川県漁海況速報 平成15年9月 (H15- 6号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成15年9月3日(播磨灘)、2日(備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや低めから著しく高め」、塩分は「かなり低めから平年並み」、透明度は「やや低めからかなり高め」、溶存酸素は「著しく低めから平年並み」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	27.6	26.5	24.9	30.8	31.2	31.4	11.1	4.46	2.35
	平年値	26.9	26.5	25.3	31.6	31.7	31.8	8.7	4.52	2.85
	平年偏差	0.6	0.0	-0.4	-0.8	-0.5	-0.4	2.4	-0.06	-0.50
	状況	やや高め	平年並み	平年並み	やや低め	やや低め	やや低め	かなり高め	平年並み	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	27.2	26.5	26.6	30.7	30.8	30.8	3.3	3.33	3.22
	平年値	26.9	26.7	26.5	31.5	31.6	31.9	4.5	4.32	4.07
	平年偏差	0.3	-0.2	0.0	-0.8	-0.9	-1.1	-1.2	-0.99	-0.85
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	やや低め	やや低め	かなり低め	やや低め	著しく低め	かなり低め
燧灘	4地点平均値	29.9	25.8	24.4	30.8	31.6	31.9	12.7	4.70	1.28
	平年値	27.6	26.5	24.8	31.6	32.0	32.1	11.2	4.59	2.55
	平年偏差	2.3	-0.7	-0.4	-0.8	-0.4	-0.2	1.5	0.11	-1.27
	状況	著しく高め	やや低め	平年並み	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	かなり低め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

平年値の算出期間 水温及び塩分：昭和47(1972)～平成13(2001)年度

透明度：昭和58(1983)～平成13(2001)年度

溶存酸素：昭和55(1980)～平成9(1997)年度

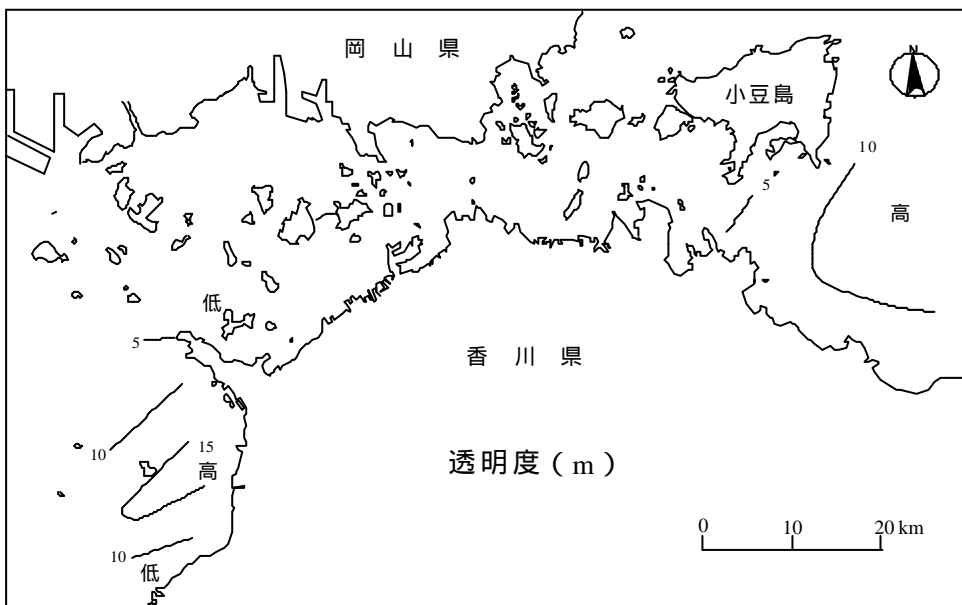
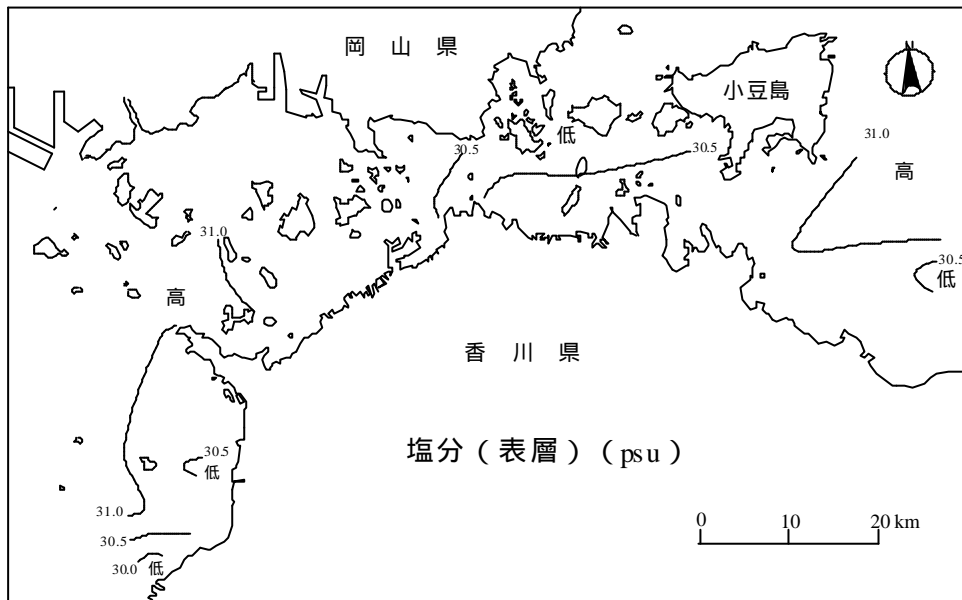
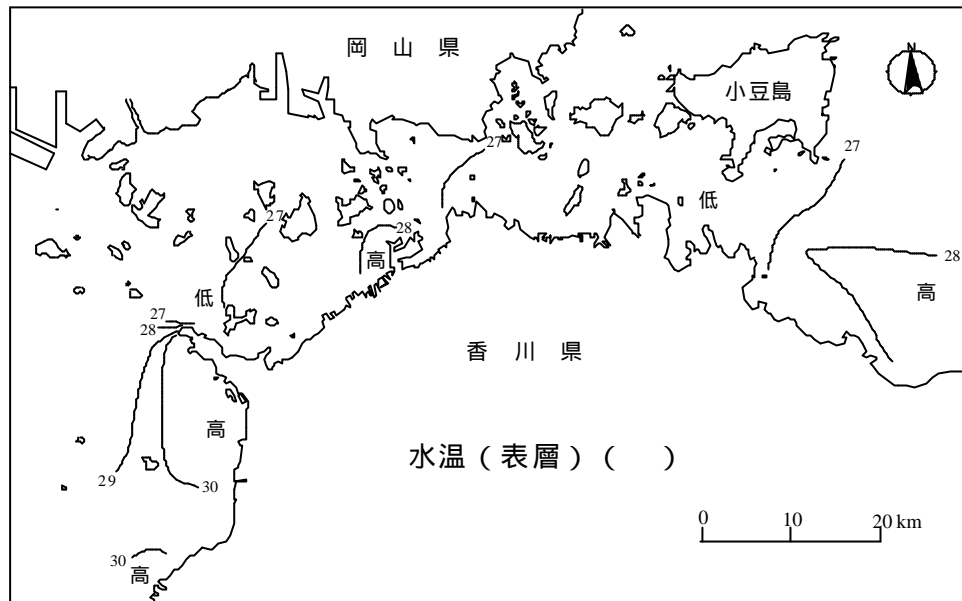
水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み 0 平年偏差 < 0.6 (: 標準偏差)

やや高め(やや低め) 0.6 平年偏差 < 1.3

かなり高め(かなり低め) 1.3 平年偏差 < 2.0

著しく高め(著しく低め) 2.0 平年偏差



2) 定量観測 (水温)

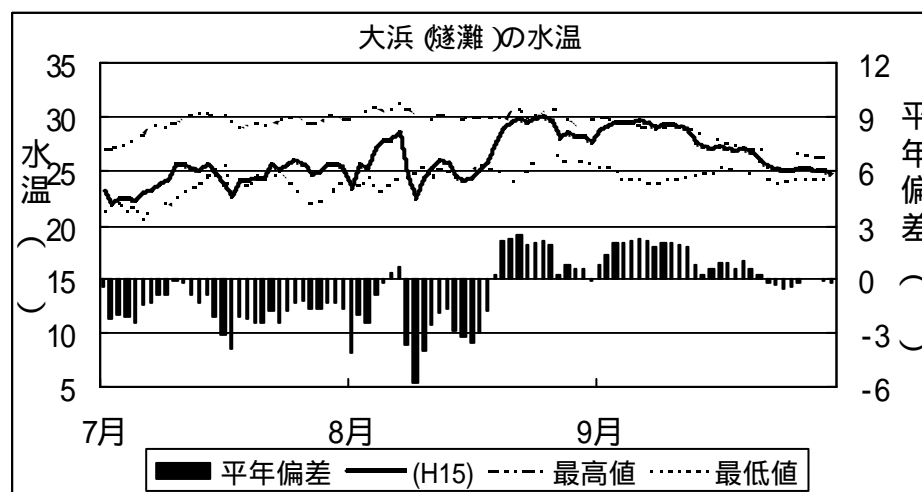
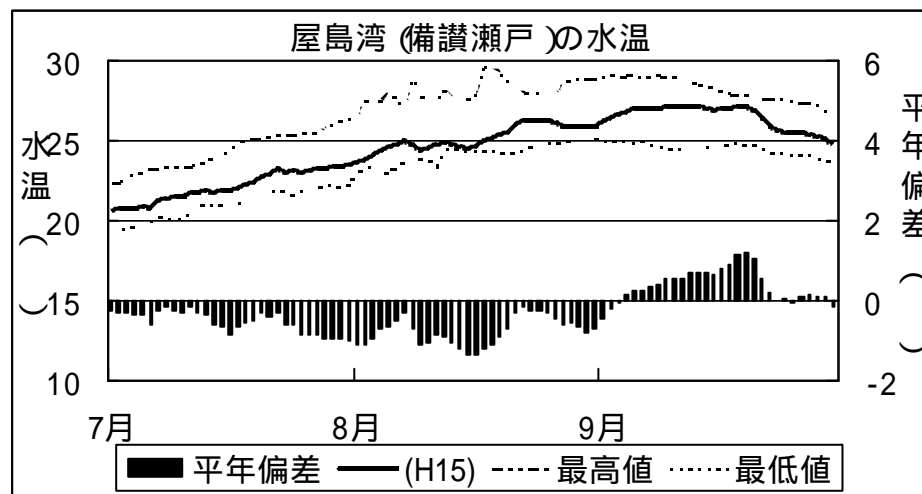
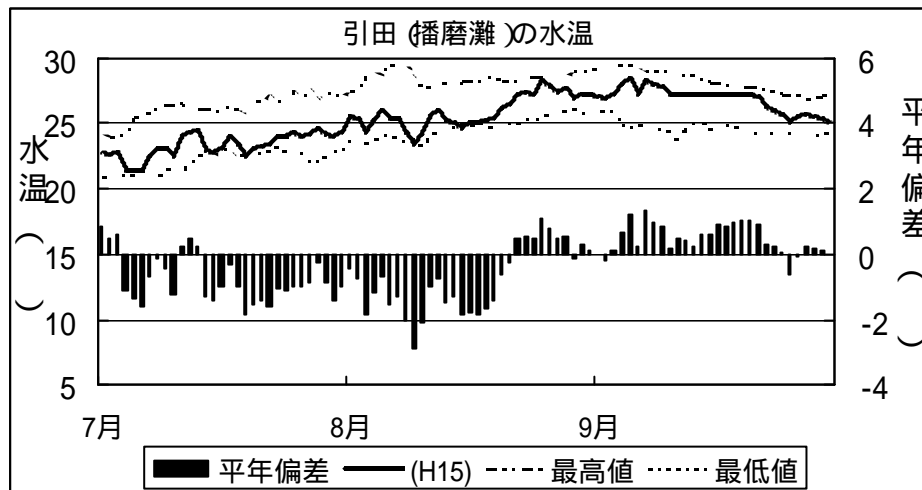
播磨灘 (引田): 8月中旬まで平年偏差が - 2 前後で推移していた。8月下旬から上昇に転じ平年偏差が1 前後で推移していたが、9月下旬に低下し平年値前後で推移している。

備讃瀬戸 (屋島): 8月下旬まで平年偏差が - 1 前後で推移していた。9月に入り徐々に上昇していたが、下旬に低下し平年値前後で推移している。

燧灘 (大浜): 8月中旬まで平年偏差が - 3 前後で推移した。8月下旬から上昇に転じ平年偏差が2 前後で推移していたが、9月下旬に低下し平年値前後で推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元 (1989) ~ 平成 14 (2002) 年

屋島: 昭和 50 (1975) ~ 平成 14 (2002) 年



3) 赤潮

播磨灘：8月下旬南西部で *Mesodinium rubrum* による赤潮の発生があった。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

4) 卵稚仔

調査日：平成15年9月3日（播磨灘）、2日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	82.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.50	9.50
備讃瀬戸平均	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.60	2.20
燧灘平均	17.71	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.71	1.71
総平均	26.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.90	4.03

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	514.4%	0.0%	-	-
備讃瀬戸平均	45.5%	0.0%	-	-
燧灘平均	115.0%	0.0%	-	-
総平均	317.2%	0.0%	-	-

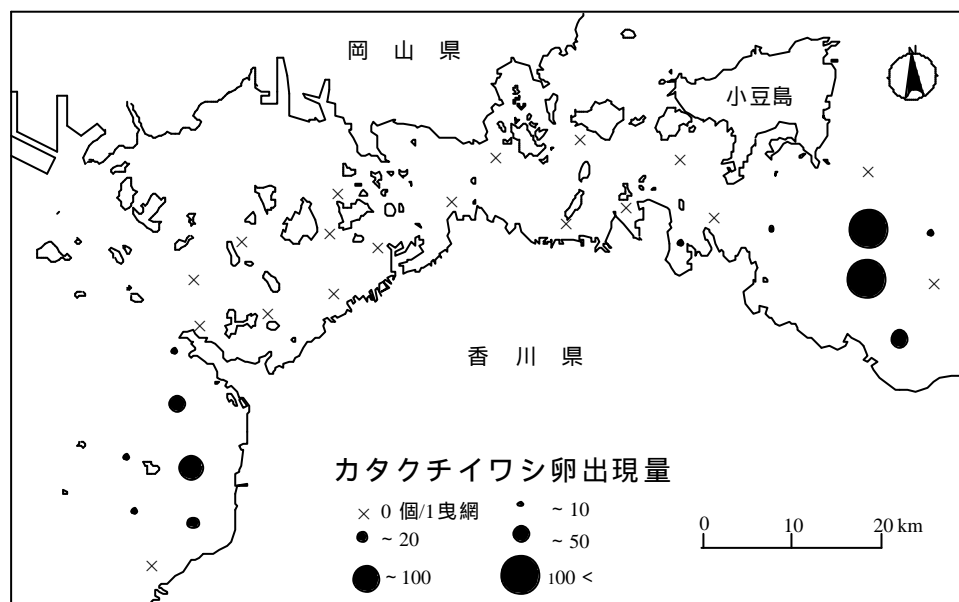
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成14（2002）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成14（2002）年度

各調査点のカタクチイワシ卵の出現量は、次のとおりである。



2. 漁況

8月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網では主にイボダイ、小エビ類、ヤマトカマス、マアナゴが漁獲されているが、全般的に低調である。</p> <p>舩網では主に小サバ、ウルメイワシ、スズキが漁獲されているが、全般的に低調である。</p> <p>シラス船曳網は前年漁獲があった9月に入っても休漁状態が続いている。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、マアナゴ、小エビ類が漁獲されているが、前年漁獲が多かったマダコは少ない。</p> <p>込し網、流し刺網のマナガツオ漁は、9月上旬で終了したが、前年同様低調な漁獲である。</p>
燧 灘	<p>底びき網で主にメイタガレイ、シャコ、シロギス、テンジクダイ、小エビ類、トリガイ、マアナゴが漁獲されている。</p> <p>いわし機船船曳網のカタクチイワシの8月までの漁獲量は前年をやや下回り、9月に入っても休漁している。</p>